

熱海

まちづくりビジョン



< 目 次 >

はじめに	1
1. 熱海のまちづくりビジョンとは	2
1) まちづくりビジョンの考え方	
2) 熱海の新たな観光ビジョン	
2. 熱海のまちづくりの歴史と現状	4
1) 熱海の発展の歴史と先人の遺産	
2) 地形の特性	
3) 先進的な取り組み	
4) 市民参加のまちづくり	
3. 熱海まちづくりビジョン	
1) まちづくりの基本方針	14
(1) 熱海の地形・気候に根ざす	
(2) 温泉・歴史・文化を活かす	
(3) 市民の取り組みを活かす	
2) まちの全体像	16
3) まちづくりの拠点	
(1) 熱海駅周辺「熱海のかお」	
(2) 市役所・湯前神社周辺「熱海のへそ」	
(3) 起雲閣周辺「熱海のこころ」	
(4) 観光港	
(5) 海岸線	
4) 海と市街地と山をつなぐ	22
4. 今後の取り組み	23
1) 行動戦略（アクションプログラム）	
2) まちづくりビジョンの実現に向けて	

はじめに

熱海市は、平成 19 年に静岡県内で初めて景観法に基づく「景観計画」を策定し、良好な景観の形成に関する方針を定めるとともに、景観の視点から建築物の高さ、にぎわい創出、景観地区の指定、さらには屋外広告物条例の施行など総合的に景観まちづくりを実践している。

また、同年、熱海市の観光のビジョンとなる「熱海市観光基本計画」が策定され「長期滞在型の世界の保養地」の実現に向けた取り組みを開始している。

今後、観光の視点からのまちのあり方と、都市計画や景観面からのまちづくりが互いに連携していくことが重要であり、長期的視野を持った考え方が必要となる。

その基本的な考え方として、観光ビジョンを受け止め、市民にとっても安全・安心で快適なまちづくりにつながるものであること。また、まちの成り立ちや熱海の地形的特徴を活かすとともに、歴史的経緯の延長上に展開されるものであること。そして 10 年先、20 年先を見すえた両者が融合した一貫性のある考え方であることが重要となる。

市民と観光客にとって居心地が良く魅力的であり、まちのどこにいても熱海らしさを感じられ、さらには、様々な場所でその特性を活かした楽しみやくつろぎを提供できる空間を有し、それらを巡る楽しみのあるまちの実現のために、市民、関係団体、行政（市・県・国）が協働し、さらに観光客が加わり、熱海にかかわるすべての方が一丸となって取り組むことが重要となる。

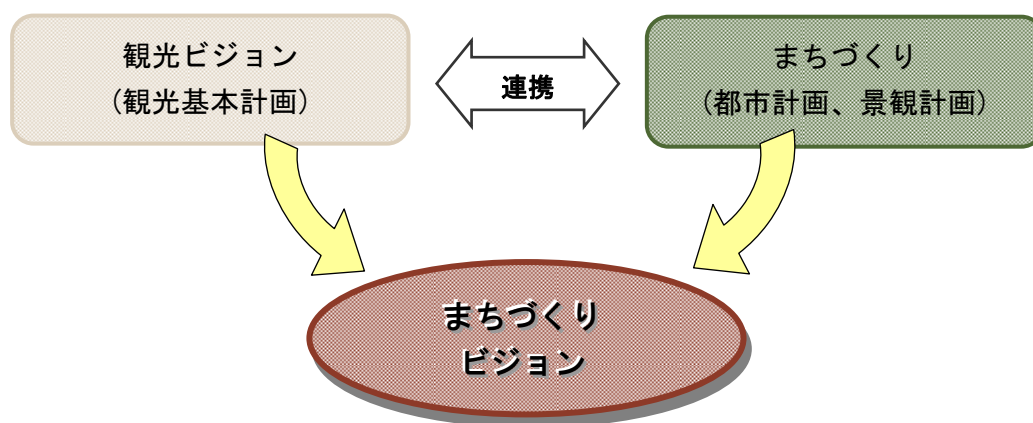
その方向性を示すものとして「熱海まちづくりビジョン」を策定する。

1. 熱海のまちづくりビジョンとは

1) まちづくりビジョンの考え方

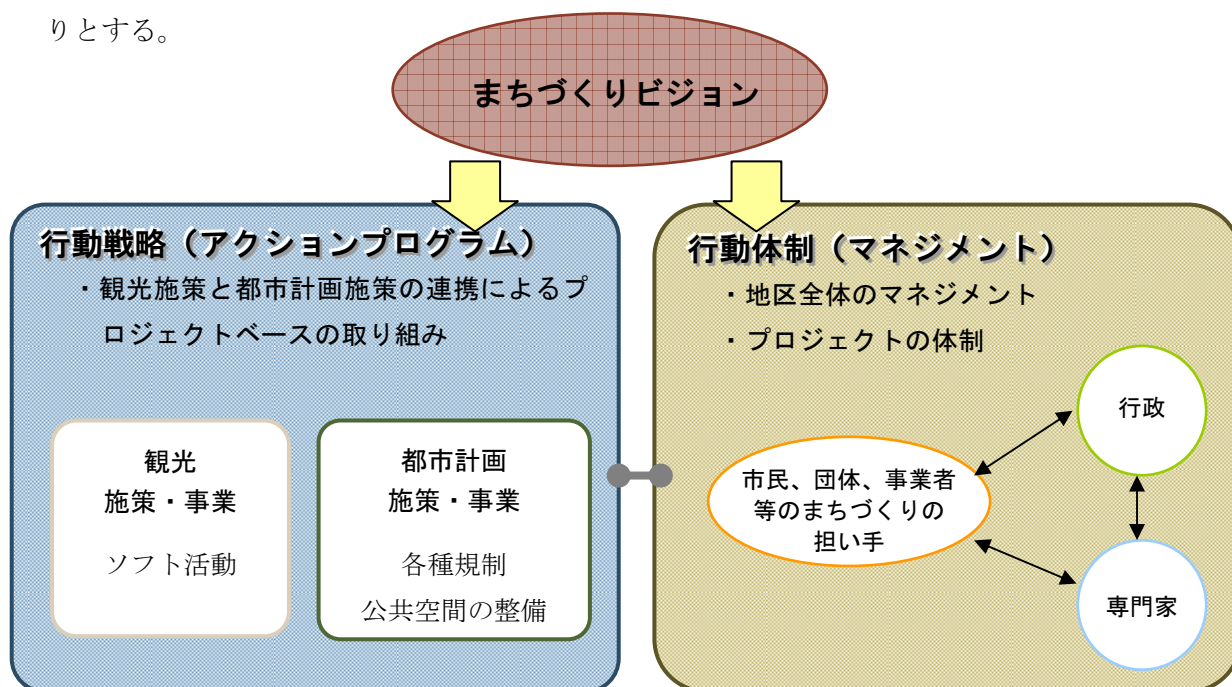
- 10年先、20年先を見すえた、「観光」と「まちづくり」が融合した、まちづくりのビジョンである。

まちづくりビジョンは、観光基本計画で定められた観光の戦略（観光ビジョン）と、都市計画や景観計画等で定められているビジョンを基軸に策定する、10年先、20年先を見すえたビジョンである。



- まちづくりのビジョンを踏まえ、行動体制や行動戦略を構築して取り組む。

様々なプロジェクトや施策を横断的に整理し、それらが連携した「行動体制（マネジメント）」「行動戦略（アクションプログラム）」を構築し、「まちづくりビジョン」を踏まえたまちづくりとする。



※熱海まちづくりビジョンの検討範囲は、都市基盤の整備予定が集中しており、緊急性の高い熱海地域の中心市街地とする。

2) 熱海の新たな観光ビジョン(熱海市観光基本計画、平成19年12月策定)

熱海の新たな観光ビジョンとして策定された熱海市観光基本計画では、熱海の目指すべき姿を「長期滞在型の世界の保養地」と定め、実現のための4つの柱が示されている。

【熱海を目指すべき姿】

長期滞在型の世界の保養地

— 心と体を回復させる 現代の湯治場「熱海」 —

熱海観光の原点である「温泉」にもう一度光をあてながら、時代と社会のニーズの変化に合わせ、長期滞在が楽しめ、何度来ても新しい発見と癒しを体験できる、市民そして観光客にとって満足度の高い心と体を回復させる「現代の湯治場」という世界に開かれた保養地づくりを目指す。

I 温泉中心主義 - 湯治場「熱海」の復権 -

熱海は大正期の熱海線乗り入れを契機に、それまでの湯治場から大衆温泉観光地へ大きく変貌を遂げたが、同時にこの頃から熱海の主役であるべき「温泉」が脇役に回ってしまった。熱海の湯治場としての歴史をさかのぼり、温泉情緒あふれる景観や温泉文化を再生させるとともに、時代のニーズに合わせた魅力を付加し、現代の湯治場を提案していく。

II もう一度行きたくなる街 - 満足度アップの仕組みづくり -

国内外からの観光客が欲しいときにいつでも熱海の情報を得られる環境、行きたいときに容易にアクセスできる環境、そして滞在して自分にあった楽しみ方を満喫できる環境づくりを進め、観光客が連泊して熱海に滞在し、また一度来た観光客が「また来たい」と思っていたくための、満足度アップを目指した取り組みを進める。

III 歩いて楽しい温泉保養地 - 経済効果の各業界への拡大 -

市内の観光施設、保養施設、商店街、飲食店などをつなぎ、回遊ルートを整備する。このことにより観光客のもたらす経済効果をホテル・旅館業以外の業界へも拡大させていく。また、同時に市民にとっても恩恵のある施設整備を進める。

IV 全員参加のまちおこし - 総合的な観光事業の実施 -

市役所、観光協会、旅館組合など、現在観光施策を実施している機関の協力・連携を強化し、熱海の発信するメッセージの統一と予算の効率的・効果的な活用を目指す。また、まち全体で観光客を迎え入れる文化をつくるため、市民に対する啓発活動に力を入れていく。

【実現のための4つの柱】

2. 熱海のまちづくりの歴史と現状

1) 熱海の発展の歴史と先人の遺産

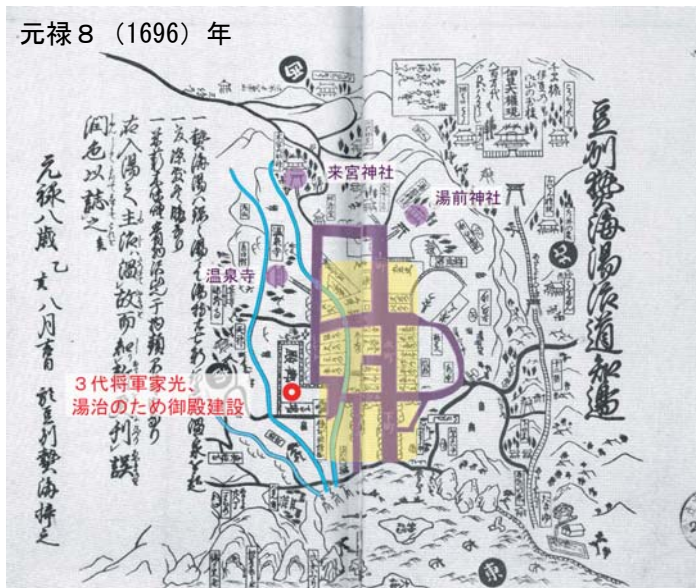
(1) 歴史的特性

熱海の特徴を把握するために、熱海のまちの成り立ちについて振り返ります。ここでは、熱海歴史年表、熱海平成歴史年表、郷土読本「熱海」等を参照しています。

①熱海温泉の始まりから江戸時代～町人や外国人も訪れる有名な湯治場として発展

熱海温泉の起源は、今からおよそ 1250 年前の天平宝字（755～765 年）頃、箱根権現の万巻上人が、海中に湧く熱湯によって魚類が焼け死に、甚大な被害を被っていた漁民たちを助けようと志し、祈願によって泉脈を海中から山里へ移したと伝承されています。移したそのかたわらに湯前権現を祀った（現在の湯前神社）と伝えられています。

江戸時代、日本唯一と言われた間欠泉があり、徳川家康が訪れた温泉地として諸大名も多く訪れ栄えました。3代将軍の頃には、湯治のための御殿の建設が行われ、4代将軍の頃には「御汲湯」として、温泉が江戸城の将軍へ送られ遠くからも入湯客が来ていました。幕末には、イギリス初代公使オールコックが富士登山の帰りに熱海へも訪れるなど、熱海は町民や外国人も訪れる有名な湯治場として発展しました。

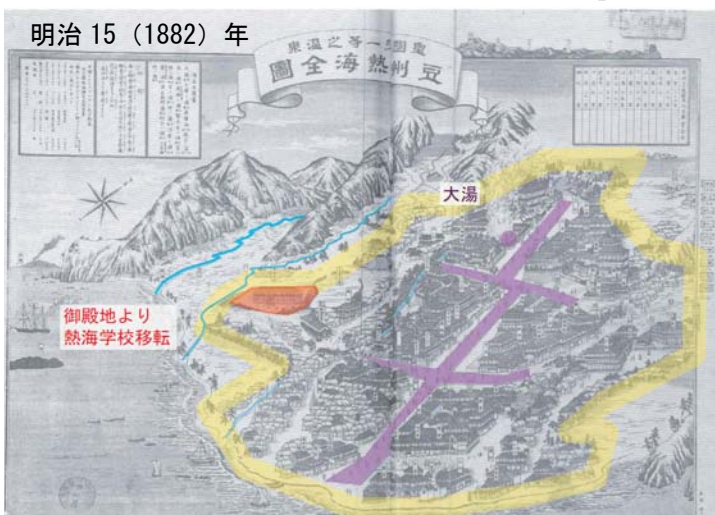


資料：熱海市『市制 50 周年熱海を語る—明治・大正・昭和写真史』昭和 62 年



大湯と通りの賑わいの様子

出典：熱海市教育委員会『熱海』平成 13 年

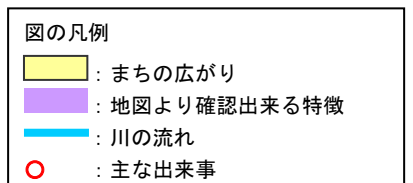


資料：熱海市『市制 50 周年熱海を語る—明治・大正・昭和写真史』昭和 62 年



明治初期の本町通りの様子

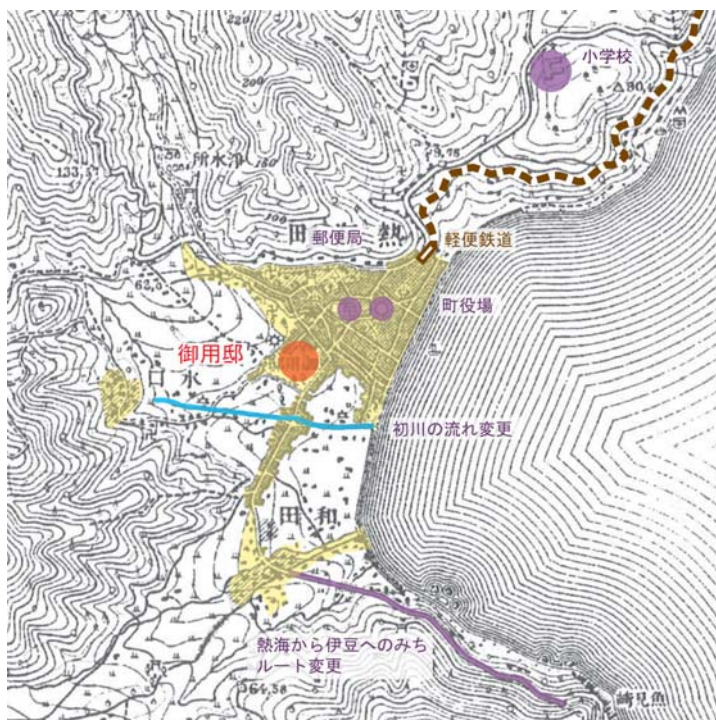
出典：熱海市『市制 60 周年記念熱海歴史年表』平成 9 年



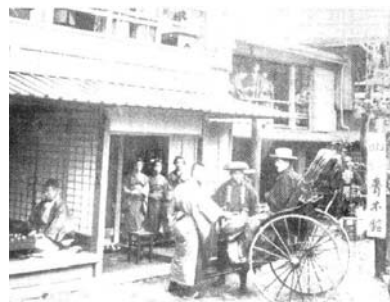
②明治、大正、昭和初期 【観光客の増加】

明治 21 年に御用邸が竣工し、政治家や実業家、軍人や文学者等の別荘が急増しました。明治 29 年には人車鉄道、明治 40 年には軽便鉄道が開通し、熱海への交通の便が良くなり、観光客が増えていきました。また、昭和 9 年には丹那トンネルが開通するなど熱海に以下のような変化が起こりました。

- 長期滞在の高級客に加え、1～2泊や日帰り一般客の増加が見られました。
- 鉄道開通により、関東のみならず関西とも結びつきを強めていきました。
- 丹那トンネルの開通後に人口が急増しました。



資料：国土地理院 2万5千分の1地形図



明治 39 年、開業当初の旅館の様子

出典：熱海市『市制 60 周年記念熱海歴史年表』平成 9 年



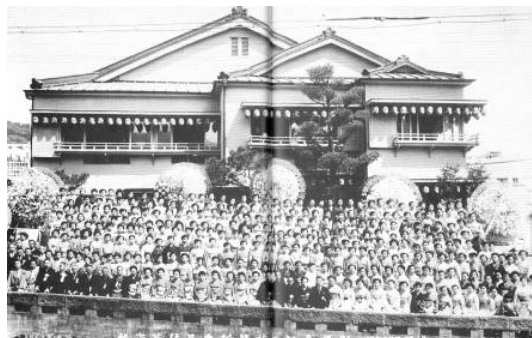
大正 14 年開業当初の熱海駅

出典：熱海市『市制 50 周年熱海を語る—明治・大正・昭和写真史』昭和 62 年

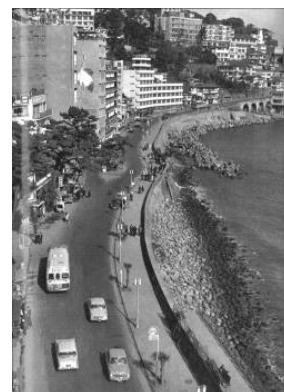
③昭和 20、30 年代 【熱海大火後の熱海】

昭和 25 年、市街地の 4 分の 1 が壊滅する熱海大火が起こりました。焼失した家屋は 979 件、被害を受けた家庭は 1,465 世帯、焼失した旅館は 40 件以上の大惨事となりました。しかし、大火の 5 ヶ月後、熱海の復興に向けて「熱海国際観光温泉文化都市建設法」が施行され、まちの整備が進められました。昭和 28 年頃には大火前をしのぐほどのにぎわいとなりました。

昭和 39 年には、東海道新幹線熱海駅の開業と東京オリンピックの開催もあり熱海のホテルは建物を拡張していた時代と言えます。



出典：熱海市『市制 50 周年熱海を語る—明治・大正・昭和写真史』昭和 62 年



昭和 30 年代の東海岸の様子

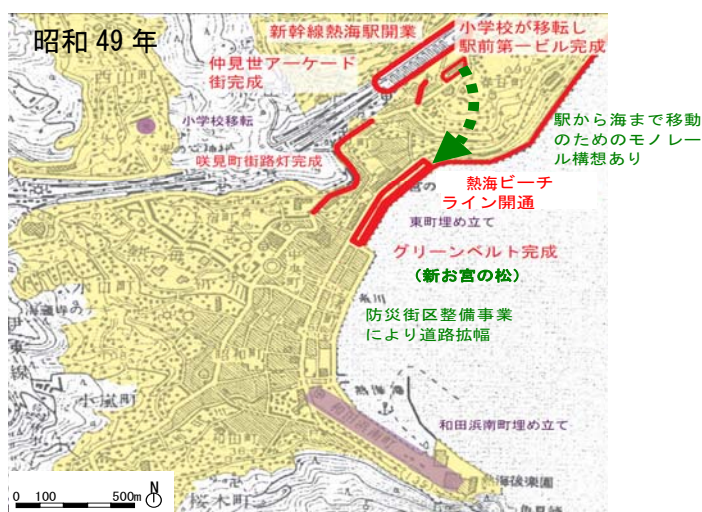
出典：熱海市教育委員会『熱海』平成 13 年

④昭和 40、50 年代 【別荘が急増する熱海】

駅周辺では、新幹線熱海駅開業後、昭和 42 年の駅前整備事業により駅前第一ビルが完成しています。昭和 46 年には咲見町通りの街路灯が整備されました。

海岸沿いでは、昭和 40 年熱海ビーチラインが開通し、昭和 41 年現在の東海岸町にグリーンベルトが整備され、新お宮の松誕生祭が行われました。昭和 42 年埋め立てが進み、自然の砂浜がなくなりました。現在の和田浜南町もこの頃埋め立てられ、熱海港客船総合待合所が整備されました。

昭和 51 年には、急増する別荘対策として熱海市別荘等所有税条例が制定されました。



資料：国土地理院 2 万 5 千分の 1 地形図

⑤バブル期～海岸沿いで開発が進む、リゾートを意識した整備が進む

風致地区の指定により、山側で行われてきた開発が、次第に海側に移っていった時期です。市街地を中心に、昭和 63 年には、マンション建設が加速し、平成 2 年には、マンションの新規申請を凍結する宣言が出されるなど開発が活発に行われた時期です。

また、海沿いでは昭和 56 年から人口海浜の造成に着手し、平成 2 年に熱海サンビーチ、サンデッキが整備され、熱海湾の中に砂浜が復活しました。昭和 62・63 年には、コースタルリゾート計画調査が始められ、平成 3 年から海岸環境整備事業により、コースタルリゾート計画に沿った海岸整備が進められました。



熱海サンビーチ 施工前



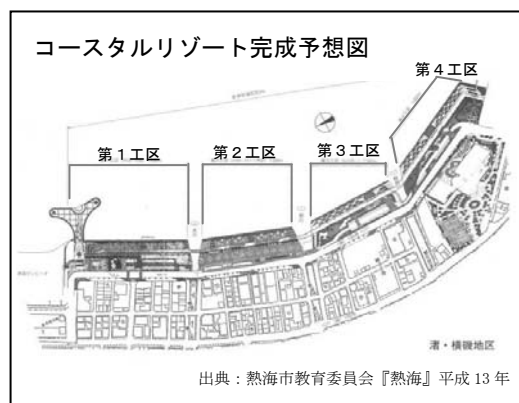
熱海サンビーチ 施工後

出典：熱海市教育委員会『熱海』平成 13 年

⑥バブル崩壊後・現在

渚地区の海岸整備は、熱海サンビーチと一体性を持たせたシーサイドネットワークを創造するため、突堤・堤防の改良及び公園施設を整備しています。

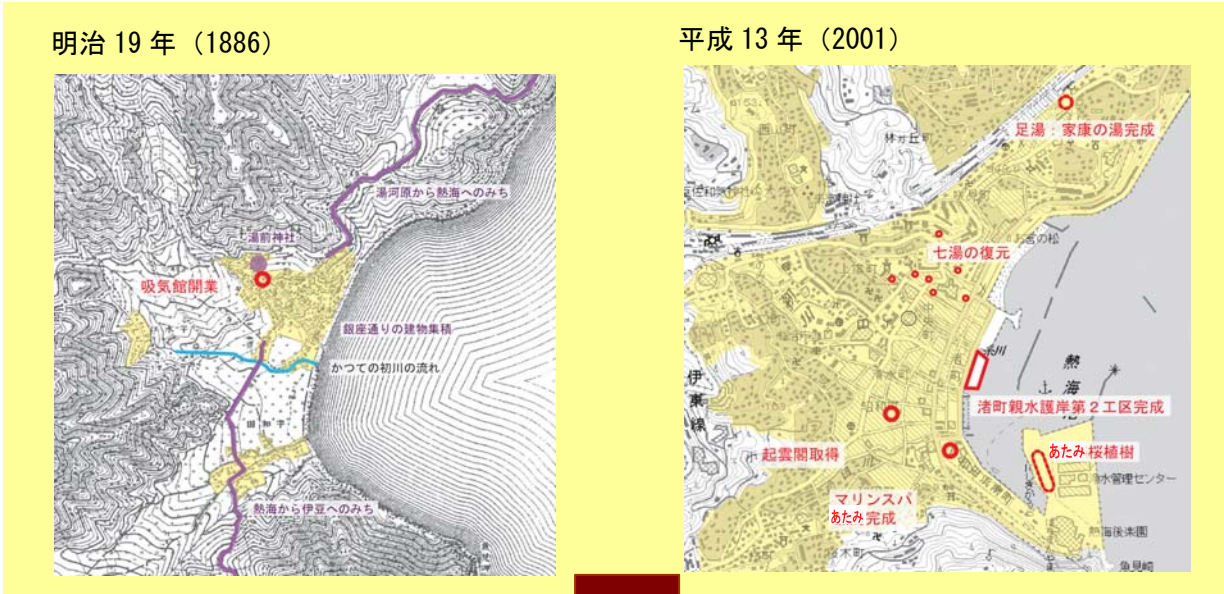
平成 9 年に第 1 工区が完成し、平成 12 年に第 2 工区が完成。そして、現在、第 3 工区まで完成しました。



出典：熱海市教育委員会『熱海』平成 13 年

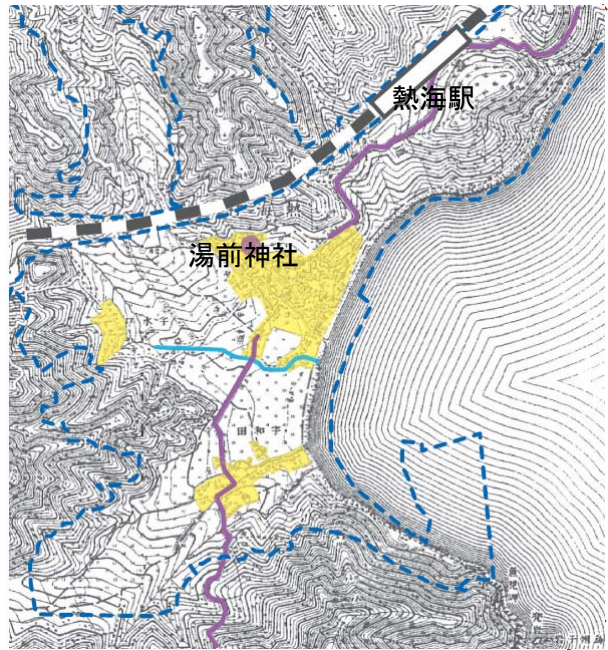
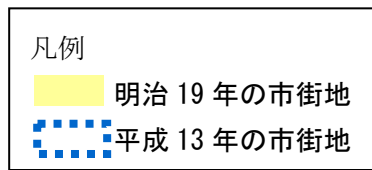
(2) まちの発展と検証

熱海のまちの変化について、地図を用いて比較すると以下の3つの変化が浮かび上がります。



明治から現在にみる まちの変化

- ・市街地の拡大が進む
- ・熱海駅が開業し、周辺の市街化が進む
- ・海の埋め立てが進む



現在のまちの状況

- ① まちの中心性が、まちの拡大とともに薄れている
- ② まちの第一印象を決める熱海駅の役割が拡大している
- ③ まちと海との結びつきが弱まっている

①まちの中心性が、まちの拡大とともに薄れている

熱海のまちは、山と海に囲まれ恵まれた地形のもと温泉地として形成されていきました。江戸時代の古地図からは、熱海のまちは、湯前神社から大湯間欠泉、現在の銀座通りが中心であったことがわかります。

しかし、時代の流れとともに歴史的に蓄積されてきた熱海のまちの中心性は薄れていきました。

まず、昭和 25 年に起こった熱海大火により、歴史の面影のあった街並みは消失し、市街地の再編が進みました。海岸は埋め立てが進み、それに伴い、ホテルや旅館が海岸沿いへ移動していきました。



熱海銀座通り

次に、東海道新幹線熱海駅がまちの中心部の北東方面に開業し、人の吸引力のある場所が、現在の銀座通りから離れたところに出来たことも中心性を失わせる要因となりました。

また、まちの中心部から南西方面は、人口、観光客の増加に伴い住宅やホテル・旅館などの整備が進み、熱海の市街地が広がっていきました。

現在の銀座通り周辺において、かつての歴史の面影を偲ぶものは、湯前神社、大湯間欠泉、木造家屋等が見られます。一方、平成 6 年に整備された銀座通りのアーケードは、熱海コースタルリゾート計画が策定された以降に整備されたため、海やリゾートを連想させるデザインとなっています。現在では、歴史的なまちと開発のまちが混在していて、まち全体の印象が薄れています。

また、サインや舗装等のデザインも統一されていないとともに、その場所の特性が生かされていない面も見られます。

熱海観光の原点である「温泉」にもう一度光をあて、まちの中心性を感じられるまちづくりが求められています。

②まちの第一印象を決める熱海駅の役割が拡大している

熱海のまちは、最大の魅力である「温泉」を楽しみに訪れる人々と密接な関係により形成されてきました。江戸時代に町人等の湯治場として栄え、明治時代には、実業家や文人などの別荘が増えていきました。

そして、温泉地熱海を訪れる人々のために、熱海—小田原間に人車鉄道、軽便鉄道が開通するなど鉄道の整備も進められてきました。東海道新幹線熱海駅の開業により、大勢の観光客が熱海を訪れ、旅館の大型化なども進みました。



熱海駅前の足湯「家康の湯」

新幹線を利用し、多くの人を訪れる熱海駅は、温泉地熱海の玄関口、そして伊豆半島の玄関口でもあります。

また、熱海駅は観光のスタート地点として、鉄道を利用し熱海へ来た観光客にとって、実際の熱海を感じる第一の場所と言えます。

しかし、現在の熱海駅前には、車があふれていて観光客を迎える状況ではありません。温泉を楽しめる足湯を整備しましたが、観光客のみならず市民にとっても駅前広場は利便性と開放感あふれる空間を備えた整備が求められています。



③まちと海との結びつきが弱まっている

熱海のまちは、背後に山をもち海を臨む地形的特徴があり、歴史的に振り返ってみても、まちと海が近い距離にありました。

しかし、熱海大火後には、埋め立てが進み、東海岸町や渚町が誕生しました。大火という歴史的背景、社会的な自動車交通の増大により、海を埋め立て、市街地を形成することで、熱海のまちの発展は支えられてきたと考えられます。しかし、次第にまちと海との距離は離れていきました。

また、景色のよい熱海の魅力を求め、海岸を望む場所には、高層マンションの建設が進みました。市では、まちづくり条例等を制定し、山と海の景色を守るための取り組みを行ってきました。

近年は、サンビーチや渚地区の親水護岸整備を行い、海を感じられる場所の整備を進めてきました。

まちと海との距離が近いという熱海の特徴を活かし「歩いて楽しい温泉保養地」を実現するには、ペDESTリアンデッキ等を活用した回遊性を高める取り組みが必要です。



国道135号



まちと海をつなぐペDESTリアンデッキ

2) 地形の特性

熱海は、西部に連なる富士箱根伊豆連山から相模湾に幾筋にも伸びている尾根の谷間の扇状地に市街地が形成され、山と海に囲まれるという特徴的な地形構造を有しています。丘陵地からは相模湾と海に浮かぶ初島を臨め、海岸からは市街地とその背後に広がる緑の稜線を眺めることができます。

この美しい景観は、穏やかな気候や温泉とともに古くから多くの人々を魅了し、観光資源として、また、市民の生活に潤いとやすらぎを与えるよりどころとして大きな役割を果たしてきました。

○すり鉢状の地形（背山臨水）

山と海が、熱海の地形的な骨格となっています。このような地形は、古くから山を背にして水を臨む地（背山臨水）として良い環境とされています。このような特性から、山からの海の眺めだけでなく、海から山と市街地の眺望も楽しむことができます。



すり鉢状の地形

○オープンスペースの少ない市街地

熱海は、山と海に囲まれ、山から海へ向かってすり鉢状の地形となっています。そのため、平坦な敷地は少なく、低地部には住宅やホテル・旅館等が立地しています。

また、高層の建物があり、山・海からの眺望を阻害している面が見られます。



オープンスペースの少ない市街地

○多くの坂みち

山から海へ向かい多くの坂みちがあります。

坂みちは、歩きながら変化に富む景色が楽しめます。

しかし、生活を営む市民にとっては日常の生活で不便を感じる要素の一つです。市民が心地よいと思えるまちにしてゆくことが観光客にとっても魅力的な場所につながっていきます。



坂みち（上宿町）

3) 先進的な取り組み

熱海では、これまで先進都市に並んで全国でも先進的な取り組みを行ってきました。

しかし、これらの成果は「点の取り組み」となっており、熱海のまち全体として相乗効果を生み出すことができていません。

① コースタルリゾート

横磯からサンビーチ・渚までの海岸を地中海風のデザインで整備を進めています。



② サンビーチのライトアップ

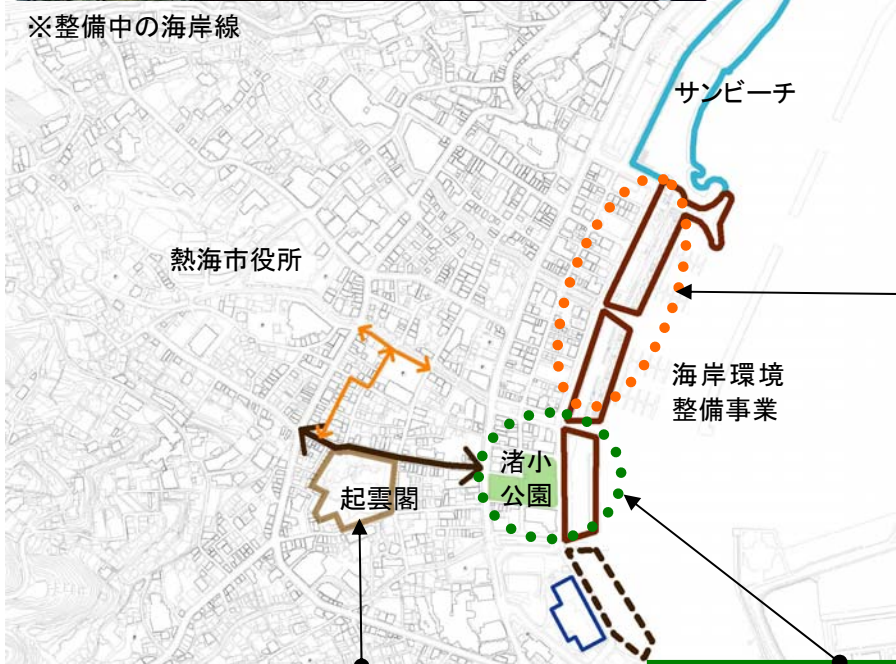
日本発のビーチのライトアップが行われています。



※整備中の海岸線

③ 第1・第2工区の整備

テラス型の新堤防を整備しました。休憩や催物場所として利用されています。



⑤ 起雲閣周辺の道路整備

起雲閣前の通りや初川までの通りを起雲閣の雰囲気に合う街路灯や舗装に整備しました。



④ 渚小公園と第3工区の整備

市街地と海をつなぐデッキが整備されました。

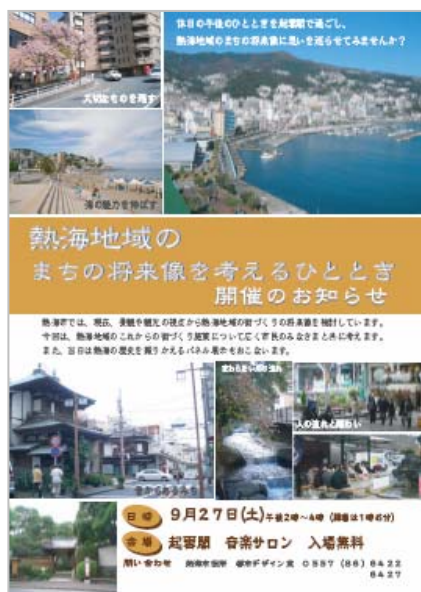


4) 市民参加のまちづくり

(1) シンポジウム等の開催

まちづくりビジョンの策定にあたり市民の皆様の意見を反映させるため、広く意見を求める取り組みを行ってきました。

- 平成 20 年 9 月 27 日 市民公開会議 「熱海地域のまちの将来像を考えるひととき」
- 平成 21 年 2 月 1 日 シンポジウム「熱海のまちづくりビジョンを共に考える」



9月27日の会場の様子



2月1日の会場の様子

会場から出されたご意見

熱海のまち

- 観光客、市民にとって、過ごしやすく、暮らしやすいまちにしたい
- 子どもの頃から熱海への愛着を育てていきたい

熱海駅・駅前

- 温泉地らしい雰囲気を感じられる駅前をしたい
- 市民や観光客が集える広場がほしい
- 駅と海岸を結ぶルートづくりが大切

街並み

- 道路や建物など、統一感のあるまちにしたい
- 散策したくなる街並みにしたい(雰囲気、歩きやすさ)

海、海岸沿い

- 散歩や友人を連れて訪れる魅力的な場所をしたい
- 海のある景観は、それだけで熱海の大変な観光資源

(2) 熱海のまちを知るイベントの実施

これまで市では、まちづくり条例の制定過程等で市民と共にまちづくりの取り組みを進めてきました。また、トライアルイベントや「熱海温泉玉手箱」により、熱海のまちを楽しむ、知るための様々なイベントを熱海のNPO団体や観光協会等と共に行いました。

まずは、まちを知ることから始め、市民や事業者と共に熱海のまちづくりを考える機会を増やしていきます。

◆トライアルイベント

〇市を中心に、熱海市観光基本計画の推進のため「歩いて楽しいまちづくり」「郷土湯再発見」に向けてトライアルイベントを実施（平成20年）

熱海浪漫「まちなか一万歩」プロジェクト 第1弾 七湯と路地裏めぐり

●主な内容

- NPOエイミック認定“温シエルジェ”のガイドにより、熱海七湯をポイントに路地裏をめぐるまちあるきを実施。
- 歩きながら見つけた魅力あるスポットをカメラにおさめ、「日航亭・大湯」で入浴後に、交流会を実施し歓談。



提供：熱海市観光戦略室

参加者募集中!

のんびり温泉歩き・まち歩き
熱海のまちあるき1万歩プロジェクト

【七湯と路地裏めぐり】

まちあるきガイド(エイミック認定)による「温シエルジェ」のガイドにより、熱海七湯をポイントに、路地裏をめぐりまちあるきを実施します。

【開催日】 平成20年6月21日(日)10時30分～14時30分
【集 合】 10時30分 熱海駅 足湯(家康の湯)
【定 員】 20名 (熱海が大好きな方など誰でも大歓迎)
【コース】 約1時間のまち歩きと温泉かけ流し温泉での入浴、交流会
※ エイミック認定「温シエルジェ」のガイドにより、熱海七湯がポイントに、路地裏をめぐりまちあるきを実施します。また、熱海温泉玉手箱のまちあるきにも参加いただけます。詳しくは、日航亭・大湯(での入浴後、交流会)までお問い合わせください。

※ 参加は、各自のペースで熱海の美しいお湯をお楽しみください。

【参加費】 1,000円(入浴料・タオル代、保険代等)
【持ち物】 お飲み物・浴用タオル・カメラ(撮影自由)
【お申込み】 メールはお名前・性別・連絡先、年齢を明記してお問い合わせください。電話・メールでお申し込みください。(6月18日締切)

お問い合わせ先：熱海市観光戦略室
TEL 0557-88-6331-6333
FAX 0557-88-6199
E-mail: kankou@city.atsugi.lg.jp

◆熱海市観光協会実施の「熱海温泉玉手箱」

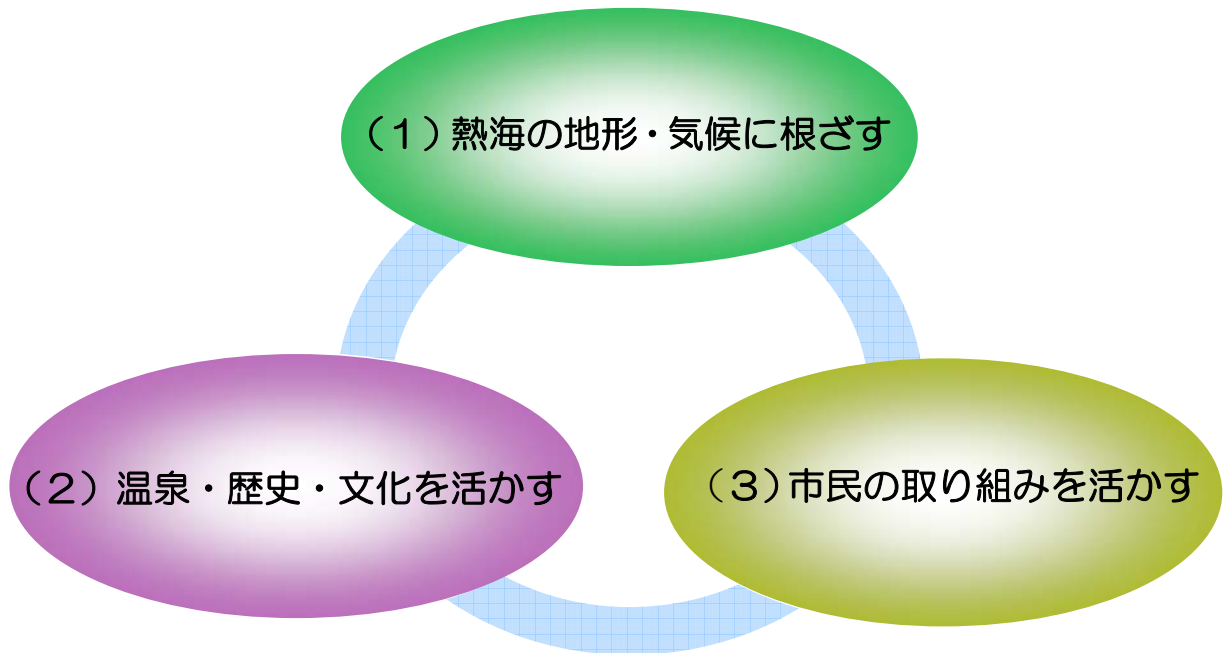
「熱海温泉玉手箱」は、通称「オンたま」と呼ばれています。平成21年1月から3月までの期間中、熱海の魅力を満喫できる体験プログラムが多数開催されます。これは、知っているようで知らない熱海の魅力を発見する試みです。熱海に潜在する自然や地場産業、まち、人、食などにスポットを当てるとありきたりなはずの熱海がキラキラ輝きはじめます。(パンフレットより)



3. 熱海まちづくりビジョン

1) まちづくりの基本方針

熱海まちづくりビジョンの実現に向け、次の3つを熱海まちづくりビジョンのまちづくりの基本方針とします。



(1) 熱海の地形・気候に根ざす

○山、海、島、地形が熱海の基本財産

…山と海と初島そして、斜面地。これが熱海の地形条件として基本的な財産です。

○海からの眺め／まちから感じる海

…熱海の海岸線からのまちの眺めは、熱海の地形を直接感じられます。一方、まちのいたるところから、海を眺めることができるとともに、河川の流れ、地形から海の方角を感じることができます。海を感じることで、これが熱海にいるという認識につながります。

○常春（とこはる）の気候

…熱海は、温暖な気候で、その魅力により観光客や長期滞在者を熱海に呼び込んでいます。

○海から上がる太陽と月

…熱海は、西側は山、東側が海で眺望が開け、斜面地から海が見える場所が多くある地形です。海から昇る朝日と月は、壮大なる自然への畏敬の念を感じられずにはられません。こうした、熱海の地形・気候に根ざした特性をまちづくりに活用していきます。

(2) 温泉・歴史・文化を活かす

○先人の遺産を活用

…これまで整備された空間は、十分に活かされておらず、市民にとっても忘れられがちな状況ですが、それらは、間違いなく現代に通じる熱海にとって大切なものです。

○温泉と人を感じるまち

…熱海の魅力は、温泉であることは誰もが認めるところです。その魅力は、人々とのふれあいによってより深められていきます。

○まち歩きの良い熱海

…熱海のまちあるきの楽しさは、ところどころで海が見えることです。もっと魅力的なものとするためには、「景観」等を充実していくことが大切です。

(3) 市民の取り組みを活かす

○市民参加のまちづくり

…熱海のまちづくりビジョンの策定にあたっては、「公開会議」と「シンポジウム」を開催し、市民の意見も踏まえて検討を進めてきました。こうした市民参加のまちづくりを今後も継続して取り組みます。

○NPO等の活動を活かしたまちづくり

…トライアルイベントでは、NPOの皆さんも巻き込んで活動を展開しています。まちづくりについても、NPO団体等と協働して取り組んでいきます。

○市民の活動が伝わるまちづくり

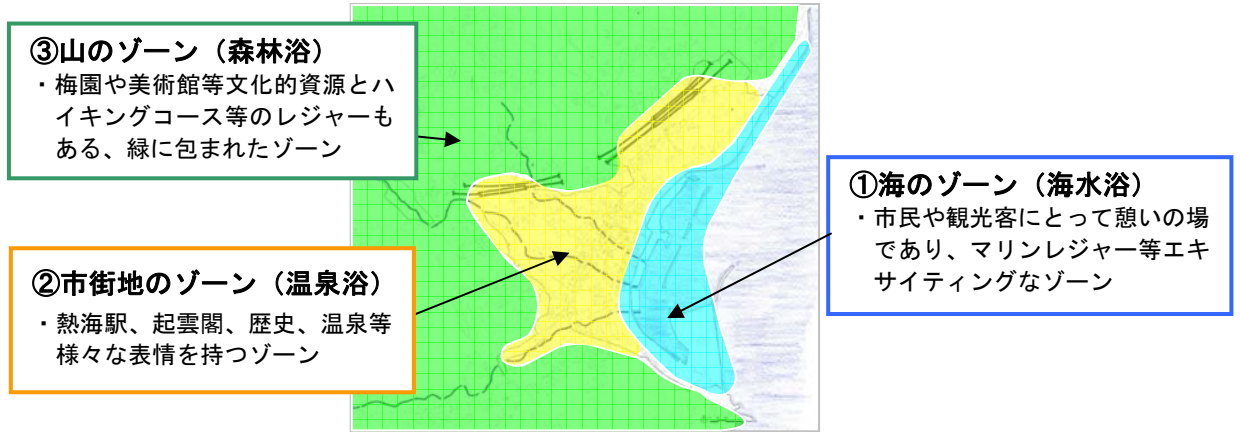
…まち全体で観光客を受け入れるために不可欠なのは、熱海市民が熱海の歴史、文化に誇りをもち、おもてなしのこころを伝えることが大切です。また、市民にとって安全で安心、住みやすい、住み続けたいまち、居心地のよいまちとする整備も大切です。

既に取り組まれている市庁舎前の花壇や各種団体による鉢植え等の市民の活動を展開し、市民の活動が観光客の目にとまり、こころが伝わるまちづくりを進めます。

2) まちの全体像

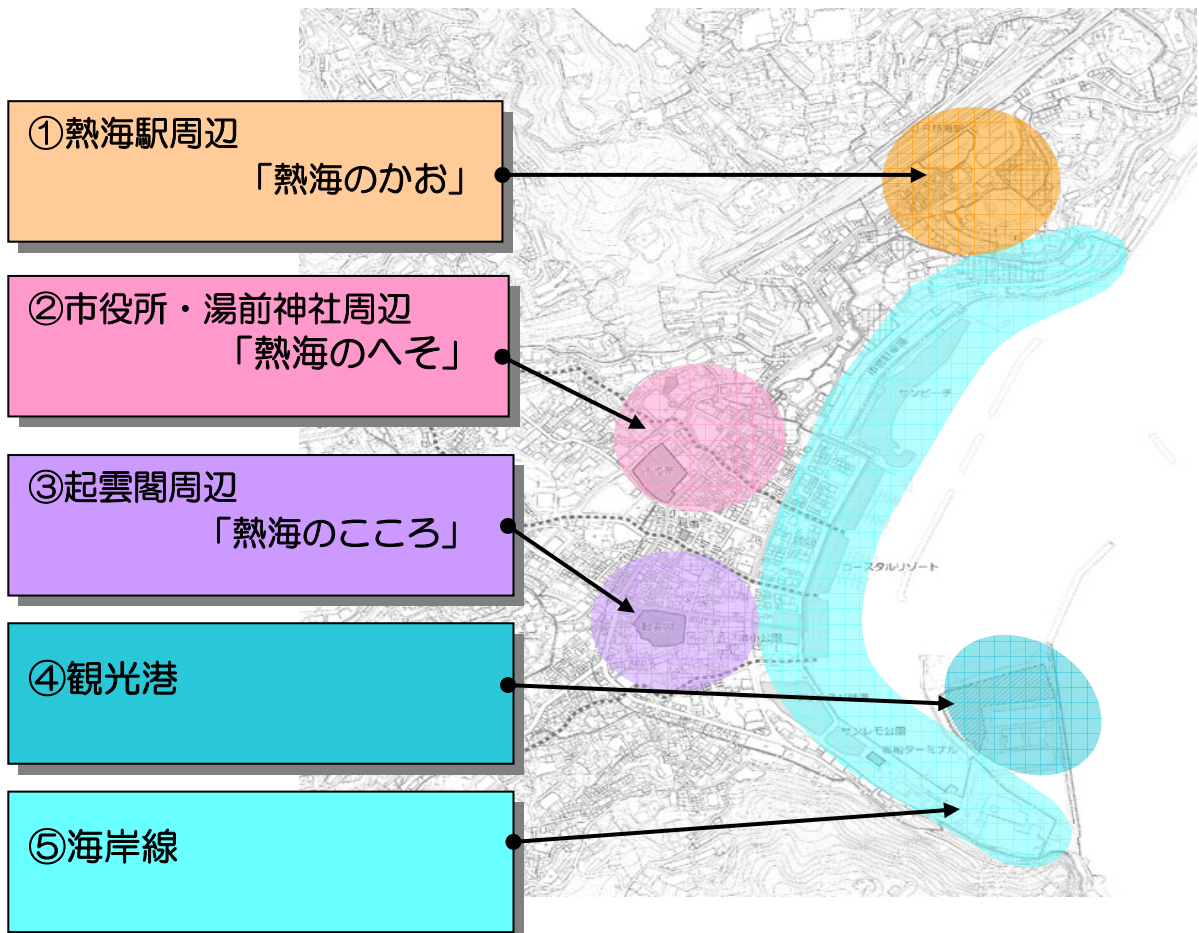
熱海の地形や市街地の状況から、①海、②市街地、③山の3つのゾーンによって熱海は構成されるといえます。

それぞれのゾーンでは、海水浴、温泉浴、森林浴を楽しむことができることも熱海の大きな魅力といえます。



3) まちづくりの拠点

まちづくりの拠点は、熱海の地形の特徴を活かした場所や歴史的にみても大切な場所であり、市民と観光客にとって居心地が良く魅力的な場所として、次の5つを重点的に進めていきます。



(1) 熱海駅周辺「熱海のかお」

…熱海のかおとして、第一印象で好感を与える魅力的な陸の玄関口をつくる

- 熱海の玄関口として、さらには伊豆半島の玄関口にふさわしい風格とにぎわいと開放感のある空間を創出。
- 駅前空間は、背後の山に配慮するとともに駅前広場や道路等の公共空間のデザインと調和する建築物を誘導。
- 建築物の低層部は、商業施設等で構成し、明るく開放的なデザインとするなど、にぎわいが感じられる景観を形成。

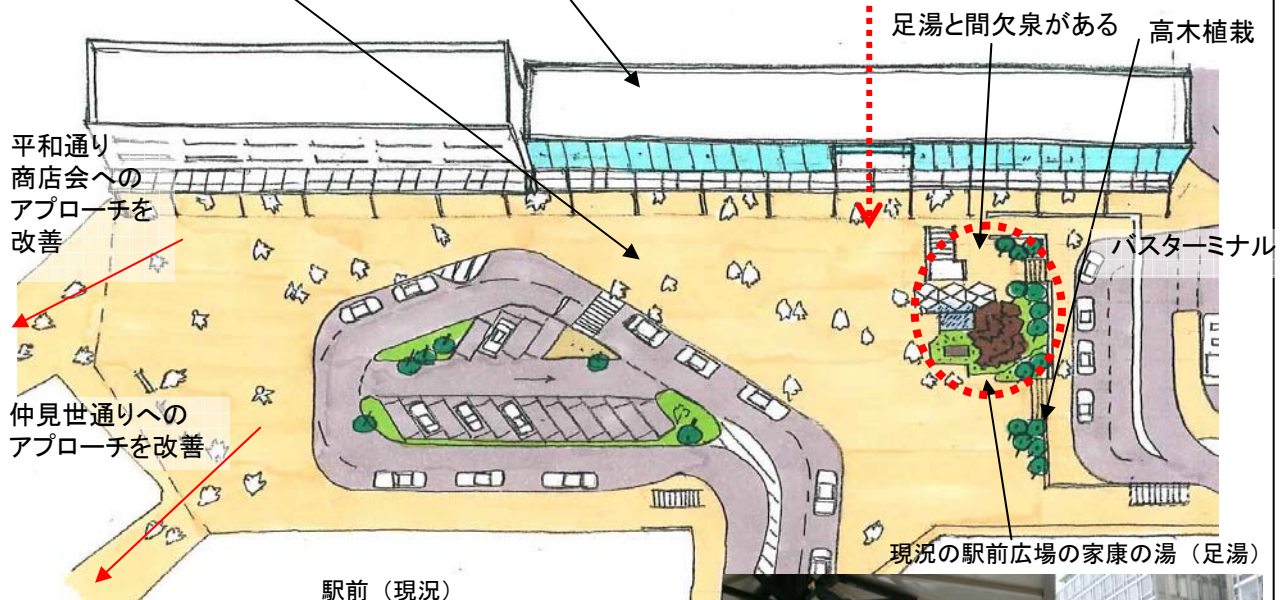
(熱海駅前広場計画、平成21年3月時点)

○駅舎の整備

- ・玄関口としてふさわしい空間デザインを誘導
- ・JR駅舎のデザインと調整のとれた駅前広場整備

○駅前広場の整備

- ・歩行者空間の拡大



(2) 市役所・湯前神社周辺「熱海のへそ」

…熱海のへそとして、熱海温泉の原点を復活させ市民と観光客の接点をつくる

- 熱海らしさの原点として、温泉の雰囲気を感じられる情緒豊かな空間の創造とにぎわいの復活。
- 来宮神社参道から湯前神社、銀座通り、糸川、市道和田浜線を連携させ、歩行者ネットワークを形成。
- 湯前神社、市役所敷地、大湯間歇泉、七湯、糸川、坂道など周辺の地域資源の連携。
- 熱海のへそとして、市役所敷地も含めた活用。(市民に親しまれ、観光客が交流できる仕掛けのある市役所づくり)

- 湯前神社から銀座通りを経由して海との連携
- 市役所敷地と湯前神社周辺が一体となったまちづくり



(3) 起雲閣周辺「熱海のこころ」

…熱海のこころとして、落ち着いたある古き良きおもてなしの空間をつくる

- 熱海市民の財産である起雲閣と先行して整備された道路等の公共空間が調和した雰囲気のある街並み景観の形成。
- 地域住民が中心となって街並み整備を進めるにあたり、デザインに優れ街並み形成に寄与している建物や街並みに調和した整備等に対する助成制度を今後検討する。
- 起雲閣と渚小公園を連携する安全で快適な沿道景観づくり。

起雲閣周辺の街並み整備

道路に面する民間建物や周辺も起雲閣に対して配慮したデザイン等によって「熱海のこころ」としての街並み景観を形成します。



※整備イメージ



※整備イメージ

(4) 観光港

…熱海の新たな海の玄関口として、魅力的な空間をつくり、活用する

※観光港とは・・・和田浜の埋め立て地：下水道用地を主体に観光施設用地、港湾用地等からなる

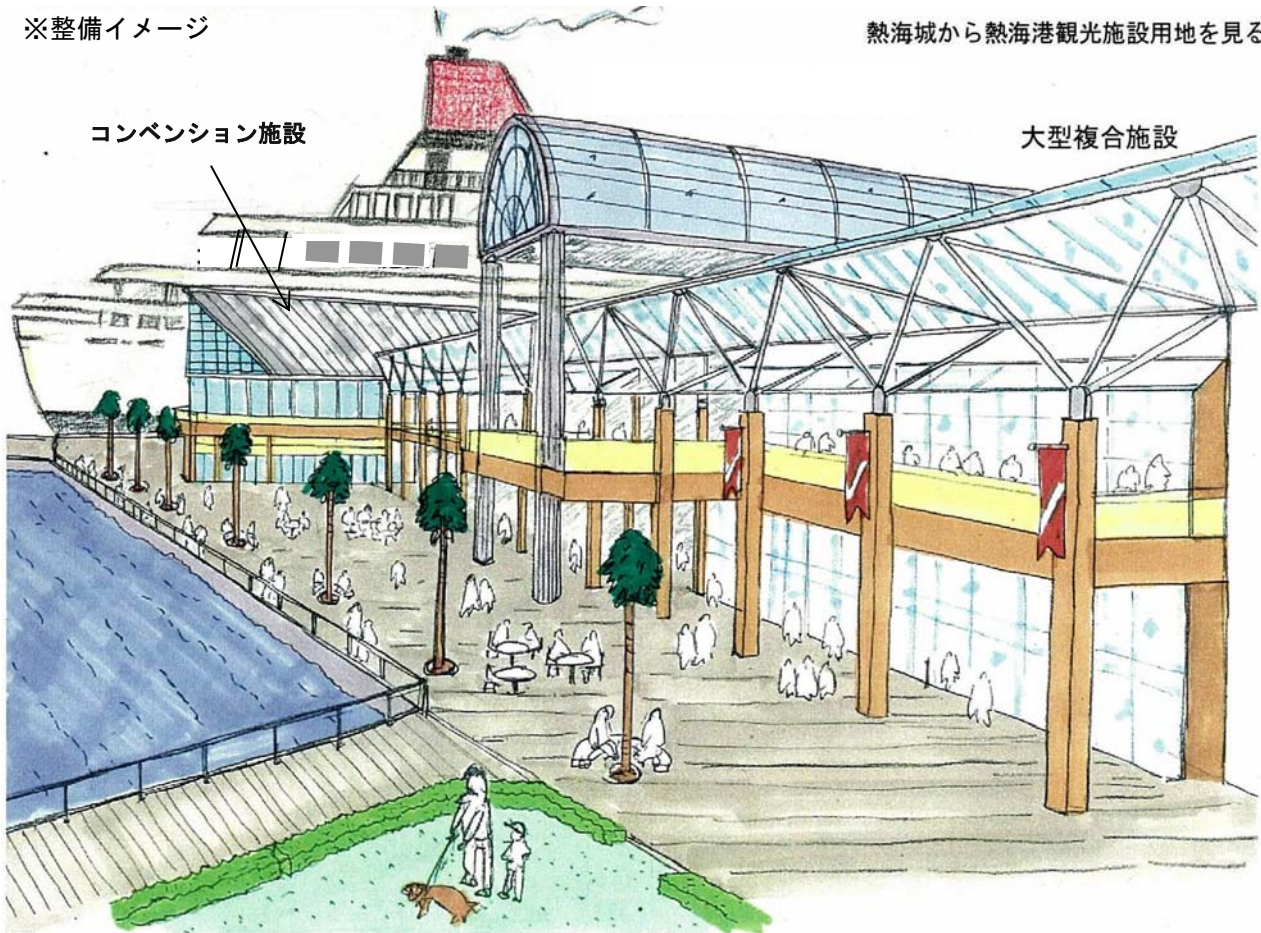
○熱海観光港は、海の玄関口としての整備を進める。(にっぽん丸寄港・フェリー寄港誘致など)

○ロケーションを活かした魅力的な空間づくりを進める。(大型観光施設・コンベンション施設の整備など)



※整備イメージ

熱海城から熱海港観光施設用地を見る

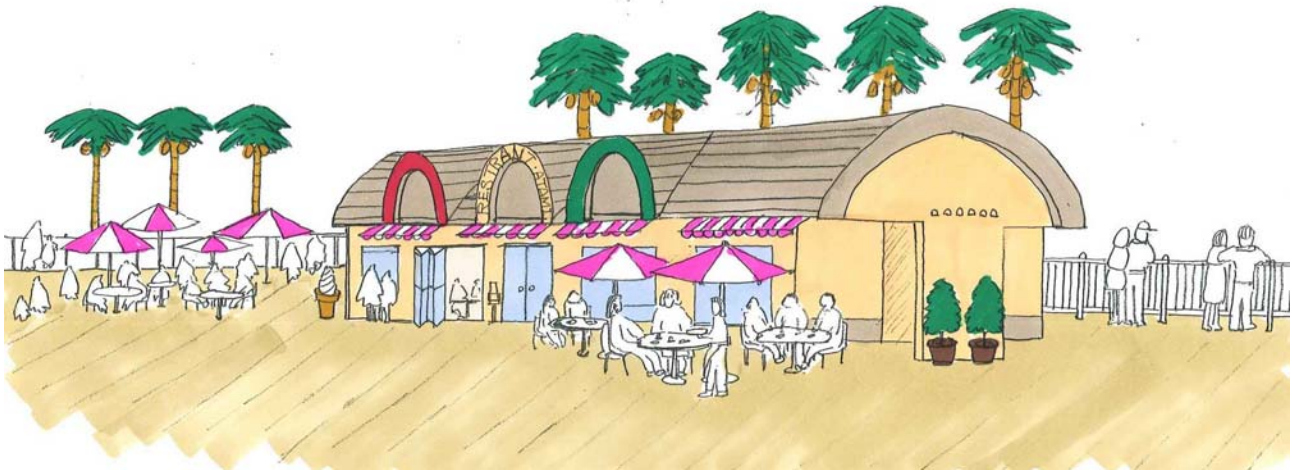


(5) 海岸線

…熱海市民や観光客がさらなる魅力を感じ、愛され親しまれる海岸をめざす

○新たな魅力の発信。(オープンカフェ・フィッシャーマンズワーフ・海上タクシーなど)

○熱海を感じるレジャー基地の充実。(磯釣り、海水浴、ヨット、その他マリンスポーツ等)



オープンカフェ等の実施



イベント



スキューバダイビング

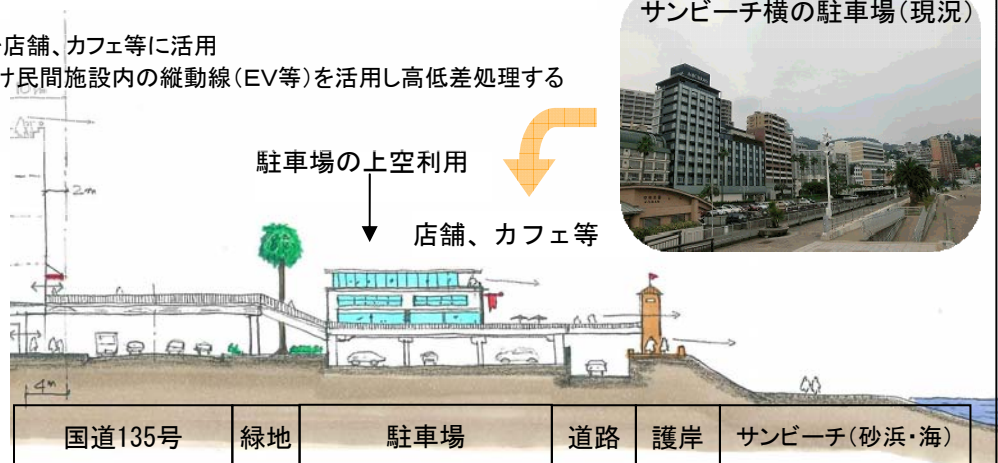


熱海港海釣り施設

※整備イメージ

○東海岸駐車場の上部を店舗、カフェ等に活用

○国道上空にデッキをかけ民間施設内の縦動線(EV等)を活用し高低差処理する



4) 海と市街地と山をつなぐ

熱海の魅力は、市街地と海、山の魅力を連携させることにより、それぞれの魅力が相乗的により強化されます。

①市街地と海とをつなぐ軸の整備

- 市街地と海をつなぐ三本の河川の魅力を高める（糸川、初川、和田川）
- 市街地と海をつなぐ街並みの整備
- 東海岸駐車場の上空利用と国道上空を渡るデッキ整備

②熱海駅と海岸を結ぶ

- 熱海駅から東海岸町の小径を経由して海へつながる遊歩道等の設定

③市街地と山側に立地する施設との連携

- 山側に立地する梅園、姫の沢公園、MOA美術館、双柿舎等の観光資源との連携
- 魅力的な坂道の整備による歩行者ネットワークの形成と利便性の強化



4. 今後の取り組み

1) 行動戦略

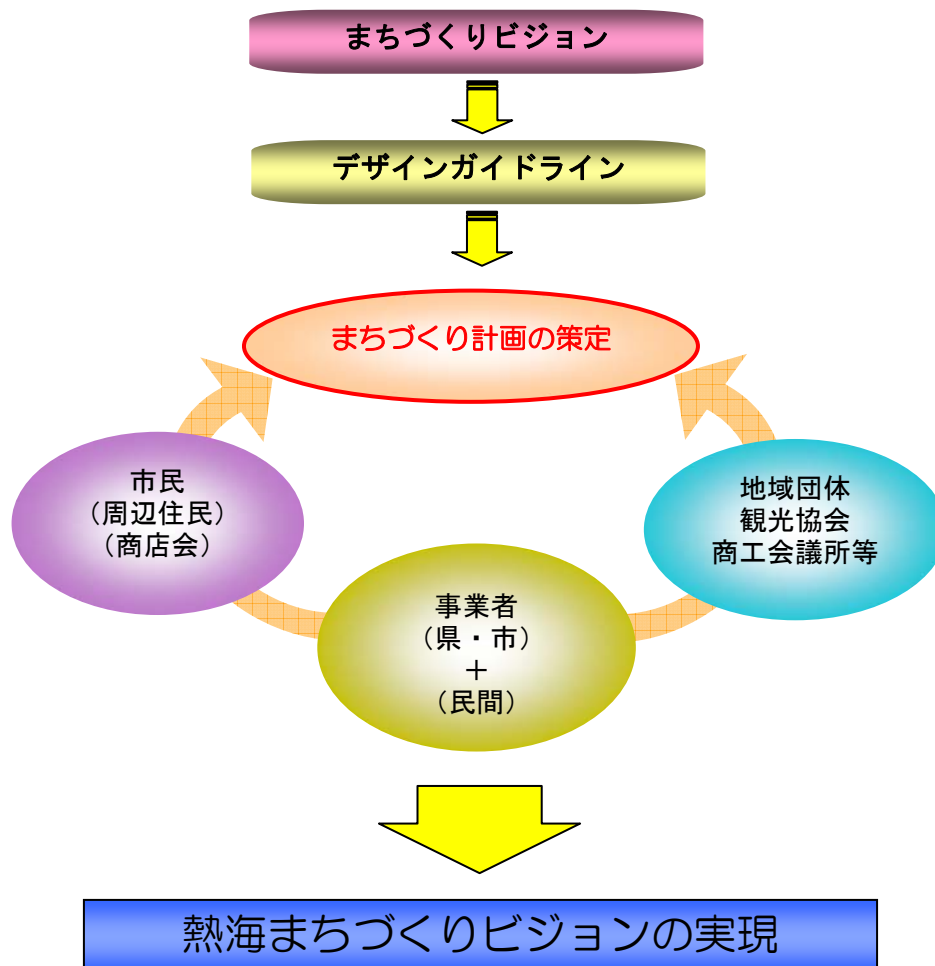
20年後のあるべき姿に向けて、目に見える取り組みをできるところから効果的に実現することを基本とします。

以下に、実現に向けて戦略的に取り組む内容を短期視点と中長期視点で整理します。

まちづくりの拠点						市街地と海・山をつなぐ
熱海駅周辺	市役所 湯前神社前	起雲閣周辺	観光港	海岸線		
平成20年度まで						
H21年度						<ul style="list-style-type: none"> ○第3工区 ○渚小公園 ○国道を渡るデッキ ○渚地区まちづくり協議会活動
公共事業のデザインガイドライン策定						
各拠点でまちづくり計画を策定						
短期						
<ul style="list-style-type: none"> ○駅前広場整備計画 ○駅前広場整備設計 ○駅前広場整備工事 		<ul style="list-style-type: none"> ○バリアフリー化（都松水口線） 	<ul style="list-style-type: none"> ○熱海港活用促進プロジェクト 	<ul style="list-style-type: none"> ○まちづくり推進地区計画の策定（渚地区） ○第4工区の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○糸川並木（あたまみ桜）再整備 ○糸川遊歩道修景整備 ○駅から海のルート整備（視点場）（東海岸町） 	
中長期						
<ul style="list-style-type: none"> ○地区まちづくり計画（仲見世通りまちづくり協議会） 	<ul style="list-style-type: none"> ○銀座通り一方通行化構想 ○観光会館リニューアル ○市役所リニューアル ○温泉観光施設 	<ul style="list-style-type: none"> ○地区まちづくり計画（清水町まちづくり協議会） 	<ul style="list-style-type: none"> ○観光施設整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○渚町中通り（渚2号）の一方通行化 ○渚地区の電線地中化 ○渚地区再開発事業 ○東海岸町駐車場デッキ化 	<ul style="list-style-type: none"> ○初川遊歩道修景整備 ○海上タクシーの運行 ○シャトルバスの運行 ○バリアフリー化整備（特定事業計画） ○来宮神社から銀座通りへの散策路の整備 	
概ね20年後						

2) まちづくりビジョンの実現に向けて

まちづくりビジョンを実現するためには、まちづくりに関わる主体が積極的にまちづくりに取り組み、さらに民間と行政など複数の主体が連携・協働することが求められます。



○協働で進める組織の必要性

市民と地域団体と行政が連携をはかり、熱海のまちづくりビジョンに向けて行動するためには、それぞれの立場や役割で出来ることを実践することが重要ですが、効果的なまちづくりを推進するためには、協働で進める組織が必要です。

例えば、熱海の「へそ」(市役所・湯前神社周辺)の整備により「へそ」を反映する環境を効果的に守り育てる(管理・運営等)ためには、周辺の住民や商店街との協力が不可欠です。

○組織の構成員

まちづくり計画の策定に関する協議・調整を図っていく構成員は、市民(周辺住民・商店会)、地域団体、観光協会、商工会議所、ホテル旅館協同組合、そして事業者としての県・市、民間等で構成されます。

熱海まちづくりビジョン

平成 21 年 9 月

熱海市建設部まちづくり課

都市デザイン室